



北極域研究における 「データ」をめぐる対話

— 人文学と自然科学の交差 —

ArCSIII
課題間
研究会

矢吹裕伯 (国立極地研究所)
世界の北極の科学研究 (外交) における
日本のデータによる貢献

小川萌日香 (国立極地研究所)
イヌイットと行う北極域の海棲哺乳類研究

高倉浩樹 (東北大学)
シベリア人類学調査におけるデータと証言

是澤櫻子 (国立アイヌ民族博物館)
先住民族資料の匿名性をめぐる課題と研究動向

[コメンテーター]
後藤悠樹 (写真家) **田村光平** (東北大学)

2026 7/1 (水) 14:30-16:30

[会場] 一橋講堂 特別会議室101・102

- ArCSIIIプロジェクト関係者対象
- フォームよりお申込みください →

[主催] ArCSIII 先住民課題・北極域データシステム



近年、オープンサイエンスの推進が奨励されるなか、データの公開およびその広範な利活用がもたらす社会的意義が強く認識されている。本研究会の目的は、北極域研究においてなにが「データ」として規定されるのか、そしてその共有がいかなる社会的影響をもたらすのかについて、異分野の研究者間で知見を共有し、学際的な討議を行うことである。

具体的には、データの質的多様性を再確認するとともに、その取得過程における方法論的および倫理的な諸課題を考察する。さらに、データが社会において広く活用される可能性について、批判的検討を交えつつ探求していく。

北極域研究は本質的に学際的なアプローチを特徴とする。本セミナーでは特に、情報科学、生態学、文化人類学、および博物館学の視座から各研究者が論を展開する。これにより、当該分野に伏在する問題群の広がりを見えやすく確認するとともに、今後の共同研究に向けて検討すべき領域を同定することを目指す。

[タイムテーブル]

14:30-14:35 趣旨説明

14:35-15:45 話題提供

- 矢吹裕伯（国立極地研究所）
世界の北極の科学研究における日本のデータによる貢献
- 小川萌日香（国立極地研究所）
イヌイトと行う北極域の海棲哺乳類研究
- 高倉浩樹（東北大学）
シベリア人類学調査におけるデータと証言
- 是澤櫻子（国立アイヌ民族博物館）
先住民族資料の匿名性をめぐる課題と研究動向

[コメント]

- 後藤悠樹（写真家）
- 田村光平（東北大学）

15:45-16:30 ディスカッション

[お問合せ]

東北大学 東北アジア研究センター 石井花織
kaori.Ishii.c8@tohoku.ac.jp